

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>  
19・8・12(月)  
南NEWS no 51



### 福島訪問

8月5日(月)・6日(火)の2日間、福島へ行って参りました。皆様からいただいた義援金181,706円は5日、飯館村教育委員会

・荒係長さんにお届けしました。その後1時間余り、以下のような内容のお話を伺い、村内の小林稔さんが経営する飯館電力ソーラーシェアリングなどの施設を案内いただきました。右の写真は農地を維持するソーラーシェアリングの太陽光発電です。パネルが高く設置してあり、その下で牧草が育っています。



3カ所にある飯館電力のパネル



### 飯館村教育委員会・荒係長のお話

8月5日(月) 飯館村教育委員会

(前もって質問事項への回答をお願いしています)

#### ①子ども達・学校の現状

現在村に通っている子ども達は幼・小・中学生は110人。うち、70名がスクールバス10台(村営7台、民間3台)で村外から通っている。震災がなければ600人。

遠い子は福島市から1時間20分をかけて通ってくる。

一つの校舎に認定こども園(保育児・幼稚園児)、草野・飯館・白石小の3校、中学校が1校が同居。小学校の養護教諭は3人。教頭先生も3人。

来年4月から小中合同の義務教育学校になる。1年生から9年生までとなる。校名・校章・校歌も一つになる。教科担任制。5・6年生から部活。

#### ②村への帰還の状況

7月1日(月)現在。村に住民票があるのは5567人、そのうち帰還している人は1169人。

避難解除後村に転入した人115人。1169人+115人=1324人。帰還率23,8%。去年は10%。70数%が村外。

#### ③村の生業の復興状況

店はコンビニが2つ。食堂はうどん屋が1つ。移動販売車も来ている。店ができるか人が帰ってくるか、どっちが先か?の問題。

医療は週2回の診療。特養老人ホーム、入所者は27名。70余りのベットが空いている。

飯館村は米は冷害に遭いやすが今年は20軒が作付け。1年目は試験栽培になる。他の農作物は、ダイコン・キャベツ・インゲン、花(トルコギキョウ・桔梗)。

飯館牛がブランドだった畜産は、8世帯が村に戻って再開している。

(飯館村道の駅で飯館牛のそうせージを食べてきました。美味でした!)

#### ④今後の見通し

村に帰還者数の目標はない。子どもを他の市町村に転校させるとそちらの方が生活に便利。

村のスポーツ広場に村外から練習や試合に来ている。震災前は東京からリトルリーグのチームが来ていたそうです。人工芝の立派なスポーツ施設です。ラオスのパラの選手のホストタウンに飯館村がなった。



村の総合運動場  
小出監督がプロデュースしたマラソンコースもあります。  
南も行きますか?

#### ⑤その他

村の田んぼ跡地などにメガソーラーが3つ。村も出資している。

山仕事は禁止。国は山の除染はしてくれない。

村の20の地区のうち、長泥だけが解除されていない。長泥の裏の山にトキオもダッシュ村があった。

小林稔さんの飯館電力のパネル→



←牧草 小林さんは農業と酪農も営んでいます。



←小林さんは不在でしたが、奥様にお目にかかれました。荒係長とメンバー 小林さんの自宅前で  
小林さん達の奮闘は“おだやかな革命”という映画にもなっています。女性のメンバー2人も観ています。この家の前には牛舎がありました。

ソーラーシェアリングとは農地の上に、人が作業できる高さをあけてパネルを設置することを言います。土地は農業に使い、パネルで発電できる一石二鳥の方法です。小林稔さんは飯館牛の復活を目指しています。



飯館電力のソーラーシェアリング



まだいたるところに汚染土の山

汚染土が詰まっているフレコンバックの山は減ったとは言え、まだたくさんありました。道路の補強材に使うという案も出ているそうです。第一原発から出る汚染水の処理も同様で、どうしたら良いのか大きな問題になっています。

23%の村人が帰還して、ブランドの飯館牛も食べられるようになり、生業も復活しつつあるのですが、美しま・までい(優しさと思いやり)な村の復活は道遠しです。豊かな恵みをもたらしてくれた山の除染も国はできないのです。

